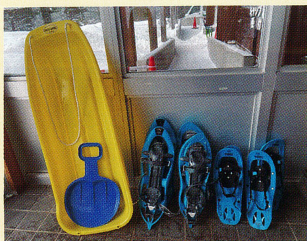


岩手県民の森

冬

見どころガイド

岩手山北麓の位置する県民の森は冬は雪景色。スノーシューなどの雪上道具があれば、初めての方でも快適に雪のなかを散策できます。雪遊びはもちろん、雪上の動物の足痕や、木々の冬芽観察など、冬ならではの楽しみがいっぱいです。



学習館ではレンタルも。

時間 9:00 ~ 16:00

- ・スノーシュー1台 1,000円 (ダブルストック付・子供用も有)
- ・ダブルストック 500円
- ・ソリ1台大 500円・小 100円
- ・スノーチューブ 2時間 600円

【みんなの広場】

学習館から歩いてすぐの岩手県屈指の絶景スポットです。



岩手山 白銀の岩手山稜線が眼前に望めます。



シラカンバ並木 大雪原の美しい並木。

【七滝氷瀑】

1月中旬～2月下旬。学習館から片道約3km 徒歩約70分。

岩手山から流れる焼切沢にかかる落差30mの最大の滝が凍り付き、迫力のある大きな氷瀑となります。県民の森では、スノーシューを履いて氷瀑を観に行く行事を開催、個人のガイドも承っています。



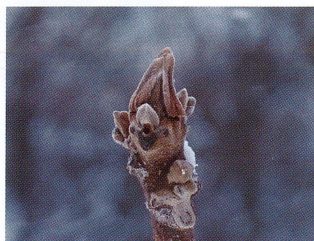
【ニホンリス】

アカマツ林のなかで松ぼっくりを懸命に食べています。



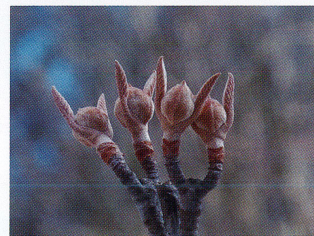
【ヒレンジャク】

ヤドリギの実が大好きな冬に飛来する鳥です。



オニグルミ (クルミ科)

「鬼胡桃」野生のクルミ。冬芽と葉痕は、動物の顔のよう。



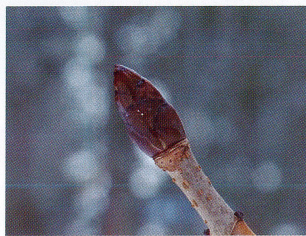
オオカメノキ (ガマズミ科)

「大亀の木」バンザイしているような楽しい冬芽です。



ホオノキ (モクレン科)

「朴の木」人差し指ほどの日本一大きな冬芽です。



トチノキ (ムクロジ科)

「栃の木」ベトベトした樹脂が芽をコーティングして守っています。



シデコブシ (モクレン科)

「四手辛夷」モフモフの毛皮が芽を守っています。



ヤドリギ (ビャクダン科)

「宿り木」他の木に寄生している木。赤や黄色の実が目立ちます。

【動物の足痕】

これまで見えなかった動物たちの足痕が雪上に残ります。運が良ければ、足痕の主に出会えることもあります。



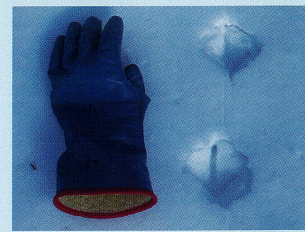
【ニホンカモシカ】

蹄が2つに分かれています。(足痕長(蹄): 5-5.5 cm)



【ニホンリス】

進行方向は斜め左下。大きな後ろ足でジャンプ。(後足痕長: 5-6 cm)



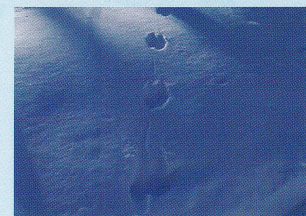
【ヤマドリ】

前向きに3本が特徴です。(足痕長: 6 cm)



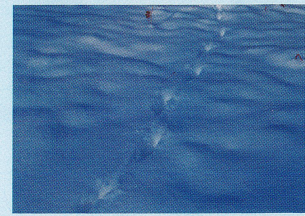
【ノウサギ】

進行方向は右上。大きいのが後ろ足。(後足痕長: 14 cm)



【ニホンテン】

シャクトリムシのように走行することが多い。(足痕長: 3-5 cm)



【ホンドギツネ】

左右の足痕がほぼ直線に続く。(足痕長: 4-5 cm)

岩手県民の森 七滝氷瀑へようこそ



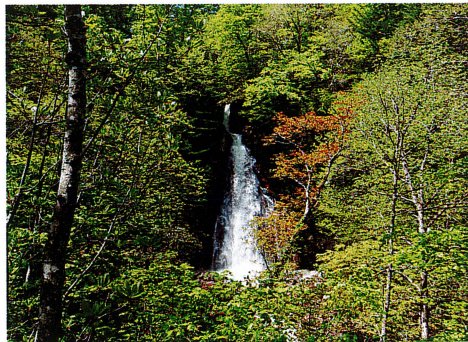
【厳冬の七滝】滝の表面が全面的に凍ります。
2021年1月31日

イベント以外の日はプライベートガイドも承ります。スノーシューレンタル付き。1週間前までの予約制。人数が揃えばお得です。団体様もご相談ください。

【時間】9:00-13:00 【料金】10,000円
(こちらの料金で最大5名までご案内)



厳冬期は滝壺まで凍ることもあります。
2022年2月22日



【新緑の七滝】 2020年5月25日



【紅葉の七滝】 2020年10月24日

県民の森にある七滝は、岩手山から流れる焼切沢の最大の滝です。春は新緑、秋は紅葉の名所として全国的にも有名ですが、厳冬期には、落差約30mの滝が凍り付いて迫力のある氷瀑となります。例年12月中旬から滝の両脇から凍り始め、1月下旬～2月中旬頃に最盛期を迎えます。氷瀑は、訪れる時期や時間によって、様々な表情が見られるため、何度も訪れる方も多いです。冬ならではの氷の芸術、本日はどんな姿が見られるでしょうか。

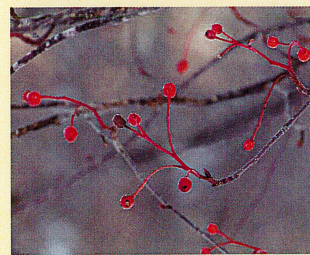
七滝までの見どころ（園内マップの「冬の見どころガイド」も併せてご覧ください）



【七滝登山道】七滝まではミズナラ中心の落葉広葉樹が多く、昭和30年代頃まで炭焼きが行われており、切り株から萌芽した「株立ち樹形」がのミズナラが多く見られます。



【みはらし広場（昭和の森）】七滝登山道は緩やかな登りが続きますが、学習館から七滝登山口までは標高差50mあり、最もキツイ登りです。登山口に到着して北側を見下ろすと、アカエゾマツなどの整った樹形の針葉樹が見られます。厳冬期には、ひときわ目立ち、迫力のある美しさです。



【アズキナシ】（バラ科）「小豆梨」小豆（アズキ）のような大きさの梨のような実がなります。今年は豊作で赤い実が冬も残っています。



【カラマツ】（マツ科）「唐松」日本産針葉樹のなかでは唯一落葉します。松ぼっくりはバラの花のよう。雪上に枝ごとよく落ちています。



【トドマツ】（マツ科）「楡松」常緑針葉樹。七滝の手前に植林があり、これまでの落葉樹中心の森とは異なる雰囲気の中を歩きます。



【マンダの木】（アオイ科）このあたりの呼び名で正式名はシナノキ。写真は口のような形で「顔の木」と呼ばれ、登山者に愛されています。



【ミズナラ】（ブナ科）「水榎」秋に大きなドングリが出来、森の動物たちの食糧となります。材はウイスキーの樽などにも使われています。



【ブナ】（ブナ科）「樺」七滝周辺より上部に多く見られます。秋に出来る実は栄養価が高くツキノワグマなど森の動物たちの食糧です。

【問い合わせ】森林ふれあい学習館 電話 0195-78-2092 〒028-7302 岩手県八幡平市松尾寄木 1-515-5